

2023 年度東北支部活動 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会
開 催 日：2023 年 12 月 9 日（土）10：00-12：30
会 場：オンライン
参加人数：29 名（会員 17 名、一般 12 名）

2023 年度の東北支部集会は 12 月 9 日（土）にオンラインで開催しました。今年度の東北支部委員が考えたテーマは「専門人材として地域日本語教育に関わる」です。

2019 年に「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行されたことを機に、全国の自治体では地域日本語教育の環境整備に向けた動きが活発化しています。それにもかかわらず、地域日本語教育は依然としてボランティアに依存しており、専門家による初期日本語教育機会の不足や教育の質の保証などが課題になっています。一方で、地域日本語教育に役立ちたいと考えている日本語教師にとっても、地域日本語教育は対価を得られる仕事の場としての機会が限られているのも現状です。さらに、企業や自治体側にとっても、専門性のある日本語教育人材が見つけれないという問題もあります。こうした課題を解決するために、東北地方で、仕事として、企業や自治体からの依頼を受け、質の高い日本語教育を提供し正当な対価を得るという取り組みをしている 3 つの団体があります。今回は、この 3 団体の代表をお招きし、設立の経緯や具体的に行っている活動についての話を聞きました。

登壇してくださったのは「一般社団法人ふくしま多言語フォーラム」代表理事の永島恭子さん、「NPO 法人ひろだい多文化リソースルーム」理事長の吉田美穂さん、「Yurt (ユルト) 東北日本語教師協働会」事務局長の吉田環さんの 3 名です。

3 名のお話を聞いた後で、対話のひろばを行いました。3 つのブレイクアウトルームに分かれ、登壇者を囲んで質問をしながら話をしました。その中で、社団法人や NPO 法人を設立することのメリットや実際の運営、企業や自治体・教育委員会との連携の方法、地域で暮らす外国人コミュニティとの連携、地域日本語教育への大学関係者の関わり方、日本語教師の側から専門性を発信していくことの重要性など、様々な話が出ました。

参加者からは、「専門人材をつなげたり育成したり、専門人材と学び合ったりしている活動実践の詳細が聞けてよかった。」「地域の日本語教室の運営、人材確保、助成金関係、多面的に課題や解決策を知ることができ、今後の地域の日本語教室のあり方について考えるよい機会になった。」などの声が聞かれました。

今回のテーマでどのぐらいの参加者が集まるのか不安もありましたが、日本語教育の専門性を地域で役立てたい、実際に行動してみたい、すぐにでも活動を始めたい、という熱い思いを持っている参加者が非常に多いことがわかりました。また、参加者は東北地方に留まらず、全国各地から集まりました。このテーマが全国共通の課題であると再認識することになりました。

日本の社会では、今、多文化・多言語化が急速に進んでいます。私たち学会員は、日本語教育を専門としています。日本語教育への貢献はもちろんですが、日本社会の多文化共生のために貢献できることは何かについて、一人一人が自分事として考えてみるのが重要ではないかと思えます。

登壇者の 3 名の皆さま、活発な意見交換に参加してくださった参加者の皆さま、本当にありがとうございました。

（報告者：支部活動委員 高橋亜紀子・田中真寿美・嶋ちはる）